

書評

専門看護師の
思考と実践

専門看護師の

思考と実践

臨床実践は常に理論よりも複雑で、
理論だけでは把握できない数多くの現実を
突きつけてくる（ペナー、2005）。
こうした宿命を専門看護師はどのように
克服しているのか。
24事例が示す価値ある実践報告。

医学書院

- 監修 井部俊子／大生定義
- 編集 専門看護師の臨床推論研究会
- 定価 本体 3500 円＋税
- 発行 医学書院

評者

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
田村恵子

専門看護師の思考と実践の広がり と深まりに気づかせてくれる 至れり尽くせりの展開

本書を手にとった瞬間、監修・編集の
そうそうたる先生方のお名前を拝見し
て、ずっしりと伝わってくる重みに「読
むにはちょっと忍耐が必要かも」と感じ
た。思い切って「はじめに」を読み始め
ると、井部俊子先生の刺激的な文章がつ
づられていた。ことに、専門看護師が
行っている臨床推論は「動画」的であ
り、医師が行う臨床推論は「スナップ写
真」的であるとの表現に目が止まった。
「動画」的推論!? 初めて聞く言葉に、
専門看護師の働きの中心が表現されてい
ると直感的に感じて心がときめいた。臨
床に根ざして、これは面白そうと興
味を抱いた。

6つの役割を実践するための 6つの能力

序章において、専門看護師が、その実
践事例において課せられた6つの役割
（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研
究）を実践するために共通する6つの能
力（俯瞰的視点、専門的な臨床判断と実
践力の融合、実践のリフレクション、患者
との治療的パートナーシップの形成、実
践の方向性を決めるエビデンスと研究結
果を状況に投入、多様な健康・疾病マネ
ジメント）が詳細に述べられており、こ
の章だけでもかなりの読み応えである。

私が、がん看護専門看護師として常々
大切にしているのが、その事象全体をま
るごとく捉える視点であり、患者に関わる
時点でおおよその状態を把握し介入の方
向性についてあたりをつけている。そし
てほぼ同時に、専門的知識を用いて臨床
判断を行い、何を解決すべきかを見極め
ている。これらの能力は「俯瞰的視点」
と「専門的な臨床判断と実践力の融合」
と命名されており、改めてその適切さに
感心した。

専門看護師の思考と 実践プロセスにおける仮説

続く第1章以降で、先の6つの能力を
軸足として、事例に基づいて臨床推論が
展開されている。読み始めると「そうそ
う」と大きく頷いたり、「分野が異なる
とこんな違いがあるのか」と驚いたり、
「ここは私の弱いところだな」と自身の
実践能力について分析を行ったりと、
「ワクワク」の連続であった。文中の
“考えたこと”を読み、「なるほど」と納
得する。

しかも、各事例のリードには井部先生
のコメント、事例のあとには極意と秘
訣、そして、大生先生のコメントが記載
されており、これらを通して専門看護師
の思考と実践の広がりや深まりに気づく
という、まさに至れり尽くせりの展開で
ある。その上、終章には専門看護師の思
考と実践の特徴が記されており、3つの
プロセスにリフレクション・プロセスが
関与しているという仮説が提示されてい
る。

くしくも、本年度より専門看護師は高
度実践看護師として新たな発展を遂げよ
うとしている。専門看護師には、高度な
実践をどのように行っているのかを共有
し、役割開発や教育を効果的に進めてい
くための実践モデルの開発が求められて
いる。本書は、まさにその期待に応えて
くれる内容である。

専門看護師やそれを目指している方は
言うに及ばず、高度実践看護師を活用さ
れている看護管理者や、大学・大学院教
育に携わっておられる教育者の皆さんな
ど、多くの方々にぜひお読みいただき
たい1冊である。